

素材の良さを生かす

いわみ芸術劇場

総務広報課長

山本 健夫

明けましておめでとございます。令和5年6月に異動してまいりました山本です。

益田の勤務は初めてで、休みの日には天気良くて日照時間が長い益田ライフを満喫しようと自転車を持ってやって来ましたが、一度も乗ることなく令和6年を迎えてしまいました。

代わりに何をしていたかという点、単身赴任生活のための自分の食事作り。最初は手の込んだ料理を思い描きがちで、「一汁三菜」などと言われますが、自分一人の食事ではとても続かない・・・。

そんなある日、家庭料理研究家の土井善晴さんのインタビュー記事を目にすることがありました。土井さんがおっしゃられるには

人間は料理する生き物。料理には他者を思う、思いやりがおのずから入ってくる。自分で料理をしてみると、「肉ばかりじゃないいけない」と思えて野菜を鍋に入れるもの。自分のために料理してもそうなるのだから、家族のためとなるとなおさら。料理には他者を思う、思いやりがおのずから入ってくる。「料理する、すでに愛している。料理を食べる、すでに愛されている」と。

なるほど、何か特別な料理をすることではないんだな、一人暮らしならば自分で自分を大事にすることなのかも知れない。

また、土井さんは、現代の「おいしい」とは「味付け」のこ

とであって、味付けという人工的なおいしさばかりを、おいしいと言っている。和食は素材を生かす料理で、ゆでただけ、焼いたただけ、おいしく食べられると。

格好つけずに、力を抜いていくと、だんだんと「一汁一菜」でいいんじゃないか？という気になっていきました。

そんな訳で、100均グッズを使いこなしてレンジでチンする生活をマスターし、温野菜からパスタ、ゆで卵とレンジを活用すれば何とかなると「ええかげん」でやっています。

それにつけても、益田は食材がほんとうにおいしい。素材の味が生きています。



アパートのダイニングで眠る自転車

グラントワも開館から18年が経ち、昨年の秋には、グラントワを設計された建築家・内藤廣さんの企画展が開催されました。企画展にあわせ、オープニングに内藤先生の講演会がありました。藤先生が印象に残りました。おられる先生が印象に残りました。「皆さんに愛されているか？」と。

文化とは生活のなかにあるもの、と思つていますが、石州瓦に覆われたグラントワを見るにつけ、素材の良さを生かした建物だなと、改めて感じます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



ボランティア会による正月飾り

シヨスタコーヴィチの交響曲

情報発信グループ

大庭 明 博

シヨスタコーヴィチはソ連邦時代のロシアの作曲家で、20世紀において質量ともに世界で最も優れた交響曲を残しています。1906年、ペテルブルグ市（レニングラード市）に生まれ、13歳のときには当地の音楽院で「モーツアルトと同水準にある」と評価されて19歳で最初の交響曲作曲により国際的に注目を浴び、以降半世紀にわたりソヴィエト、西欧及びアメリカのジャーナリズムを騒がせました。

今回メイン曲として演奏される交響曲第5番二短調は1937年、ソヴィエト革命20周年記念日に発表され好評を得ました。前作の第4番やオペラ作品で当局の痛烈な批判を浴びていたことで生命の危険さえあった為、難解な音楽でなく「苦悩から歓喜へ」（ベートーヴェン…第九）のように力強く勝利をつかむような交響曲が待ち望まれていましたので15曲の交響曲のなかでも優れて明解で聴きやすい「叙情的英雄的シンフォニー」へと創作努力されたものです。

グラントワで今まで演奏されてきたオーケストラ作品は概ね古典派・ロマン派・

後期ロマン派だったと思われるのですが、本作品は20世紀の音楽という点ともあり、編成が大きく多彩な打楽器や管楽器が使われた壮大な作品で、彼の最高傑作となっています。4

楽章制で、第1楽章は悲劇的印象の弦の開始が印象的です。第2楽章はスケルツォ（諧謔）楽章で木管のメロディーなど楽しく親しみやすいものとなっています。第3楽章は緩徐楽章で金管とパーカッションはお休みの、深く美しく哀しみの楽章です。第4楽章はスケールの大きい近代的オーケストレーションで迫力に満ちています。圧巻のフィナーレを楽しみましょう。

声楽曲も演奏されます。その神童ぶりがモーツアルトに匹敵するほどと言われたリヒャルト・シュトラウスはドイツ・後期ロマン派の作曲家で、モーツアルトと同様に器楽曲とオペラのどちらの分野にも優れて多くの作品を残しているという共通点があり、ほかの名立たる作曲家たちとの大きく相違するところとなっています。

「四つの最後の歌」は最晩年の1948年に作曲されたソプラノのための管弦楽伴奏による歌曲集です。

第1曲「春」・第2曲「九月」・第3曲「眠りにつくるときに」（以上、ヘルマン・ヘッセの詩）、第4曲「夕映えの中で」（アイヒェンドルフの詩）の内容となつていきます。84歳のシュトラウスの若き日々の幸福感から、人生の終焉に近づくなかでの喜び哀しみ、豊かな情感、そして諦観を感じさせます。なお、ワルツ作品で有名なヨハンシュトラウス一家とは全くの他人です。

山陰フィルハーモニー管弦楽団
第51回 定期演奏会

令和6年2月18日（日）

午後2時 開演

指揮…道端大輝（益田市出身）
ソプラノ…首藤玲奈



山陰フィルハーモニー管弦楽団



指揮
道端大輝



ソプラノ
首藤玲奈

元日、能登半島での地震、翌日は羽田での炎上事故と大変な年明けでした。被災された方々に心よりお見舞い申しあげますとともに、お亡くなりになられた方々にご冥福を申し上げます。

さて、去年10月、グラントワボラントイア研修会が「県立少年自然の家」であり14名が参加しました。「県立少年自然の家」のボラントイアクラブ（IMOMUS）（イモムス）について、「このボラントイアは、中学生から大学生までが対象で、ボラントイア活動を通じて何か気づきを得て成長していただければ嬉しい」と所長のお話があり、その後、ピザづくり・エコバック作り・施設見学等、貴重な研修会となりました。

1月6日・7日には、グラントワカントワ2024が開催され、「フレンドシップ・コーラスコンサート」では多くの合唱団が出演されました。益田市、島根県内は勿論、福岡、広島、山口、東京、山梨、栃木。東京からは7グループ、中には70名からの合唱団もあり、午前10時に開演し、1部から4部まで先生方の講評や休憩を挟んで、午後5時まで、全22グループの熱演が続きました。明るく元気な歌声で、声を出すことが、こんなにも健康に良いことなのかと感じました。

現在、石見美術館では、「北斎展」の後期展示が2月12日まで開催されています。画家・北斎の感性から生まれ出た作品の数々に圧倒されました。

情報発信グループ 洗川光廣